

# 鳥取大学研究成果リポジトリ

## Tottori University research result repository

タイトル Title	鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第9集 (2017年)
著者 Author(s)	TSURUSAKI, Nobuo; YODOE, Kenichiro
掲載誌・巻号・ページ Citation	山陰自然史研究 , 15 : 59 - 67
刊行日 Issue Date	2018-09-20
資源タイプ Resource Type	学術雑誌論文 / Journal Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	© 鳥取県生物学会 The Biological Society of Tottori
DOI	
URL	<a href="http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6217">http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6217</a>

## 目録 List

鳥取県・島根県の動物相に関する  
文献目録 第9集 (2017年)鶴崎展巨<sup>1</sup>・淀江賢一郎<sup>2</sup><sup>1</sup>〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101

鳥取大学地域学部棟内 農学部動物分類学研究室

<sup>1</sup>E-mail: ntsuru@tottori-u.ac.jp<sup>2</sup>〒690-0862 松江市比津が丘2-1-7<sup>2</sup>E-mail: shimane@sc4.so-net.ne.jp

<sup>1</sup>Nobuo TSURUSAKI and <sup>2</sup>Ken-ichiro YODOE (<sup>1</sup>Laboratory of Zoological Systematics, Faculty of Agriculture, Tottori University, Tottori, 680-8551 Japan; <sup>2</sup>Hizugaoka 2-1-7, Matsue, 690-0862 Japan): **Bibliography concerning fauna of Tottori and Shimane Prefectures, Honshu, Japan. No. 9 (2017).**

**Abstract** — This bibliography lists literature dealing with fauna and zoological records of the San'in District (Tottori and Shimane Prefectures) published in 2017. Some articles published before 2016 may be also included when they were missing in the previous bibliographical series.

**Key words** — bibliography, fauna, zoological records, Tottori, Shimane

**キーワード** — 島根県, 鳥取県, 動物相, 記録, 文献目録

本稿は鳥取県と島根県の動物相に関して2017年に出版された文献の注釈つきリストである(前報までに掲載もれの2016年以前の文献も含む)。

文献入手または文献情報収集等にご助力をいただいた有田 斉・藤岡知夫, 福井修二, 林 成多, 田村昭夫, 山田 勝, 上村友久の諸氏に御礼申し上げる。

## 凡 例

採録範囲は, おもに鳥取県・島根県内の陸上域(沿岸の海域を含む)に生息する動物に関する記録を含む文献であるが, 両県に密接な関係があると思われるものは県外のものも対象としている。配布範囲に限られるなどで, 最初から正式公表を目的としたとは考えにくい記事(観察会で配

布されるプリント, 内部的報告書, 大学のサークル・学校のクラブ等の部内機関誌に掲載されたもの)も原則として扱わない。

鳥取県内での初記録など動物相解明の点でとくに必要と思われるものを別として, 短報やそれに類した簡略化された記録(野鳥の出現情報など)も, 積極的には拾っていない。

配列は分類群ごとの(総合/哺乳類/鳥類/両生類・爬虫類/魚類/昆虫:総合/昆虫:トンボ目/昆虫:直翅系/昆虫:半翅目/昆虫:鞘翅目/昆虫:双翅目/昆虫:膜翅目/昆虫:トビケラ目/昆虫:鱗翅目/クモガタ類/甲殻類/軟体動物/その他の無脊椎動物), 著者のアルファベット順である。どちらの県に関係するかは, 個々の文献の末尾に角かっこ([ ])内に記す。市販されているものについては価格を記した。スラッシュ(/)以下は要旨あるいはコメントである。

NT = 鶴崎展巨, KY = 淀江賢一郎.

## 【総 合】

林 成多 (2017) 出雲大社における河川生物相調査 (2016年). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 99–113. / 出雲市の弥山山地に源流があり, 出雲大社境内を流れる素鷲川(堀川水系)での2016年の調査による河川生物相の結果。[島根県]

林 成多・門脇久志 (2017) 隠岐諸島における河川生物相調査 (2012–2016). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 151–170. / 島後, 西ノ島, 中ノ島, 知夫里島の主要4島の河川での2012年以降の調査で得られた水生生物相の記録。[島根県]

一澤 圭 (編) (2017) 企画展「つばさの博覧会. 巨大翼竜からペンギンまで」展示解説書. 読売新聞大阪本社, 48 pp. / 鳥取県立博物館の2017年7月15日～8月27日開催の企画展の展示解説書. 昆虫, 翼竜, 哺乳類, 鳥の翼の構造と機能, 進化に焦点をあてた企画展。

井山 明・野津幸夫 (2017) 博物学の黎明期に多大な影響を与えた教師. 渡邊盈作. その著作および関連年表—体操伝習所を巣立った「体育・遊戯法」先覚者の明治期島根県生物教育界への功績—。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 285–314. / 島根県尋常師範学校教諭として島根県に在住中に島根県の鳥類などについて多くの報告書を残した渡邊盈作 (1860–1920) の足跡の調査。島根県には30～36才の1890から1896年まで在住したことを確認。旧姓は遊佐で, 体育・遊戯の先覚者として体育学で知られている遊佐盈作は同一人物とのこと。貴重な記録である。(NT) / 淀江 (1994, 「山陰のチョウたち」所収) が謎としていた, 小泉八雲との関係性, 島根師範を突然退職した理由など

- はまだ未解明のままのようである。(KY) [鳥根県]  
 小玉芳敬・永松 大・高田健一(編)(2017)鳥取砂丘学.  
 古今書院(東京). ISBN: 978-4-7722-5296-6, 102  
 pp. ¥3,200. /この中で, 動物に関係する節として,  
 第7章. 鳥取砂丘にみられる生態系. 7-1. 海浜生態  
 系の特徴(pp. 44-47), 7-3. 鳥取砂丘の昆虫類(pp.  
 52-55). 7-5. 多鯨ヶ池の動物(p. 57). (第8章. 鳥取  
 砂丘の植生管理と動植物への影響. 8-4. 昆虫への影  
 響. pp. 62-64. を鶴崎が執筆.[鳥取県]  
 田邊佳紀・一澤 圭・三原菜美・榊山 匠(2017)鳥取県  
 立博物館における野生動物遺体の解剖・標本化の現状  
 —学生団体と連携した活動事例の報告—. 鳥取県立博  
 物館研究報告, 54::175-182. [鳥根県]  
 辻井要介(2017)出雲大社境内を流れる素鷲川の水生生物.  
 ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 281-284.  
 /出雲大社境内を流れる素鷲川での2014-2016年の  
 調査で記録された水生生物の記録.[鳥根県]  
 淀江賢一郎(2017)近木英哉先生の著作目録(1918-2009).  
 すかしば, No. 64, pp. 31-39. /鳥根大学農学部  
 の昆虫学教室におられた故近木英哉鳥根大名誉教授  
 (1918-2009)の著作目録. 著作は1942年から1998年  
 まで. それぞれの著作で共著者になっている人物など  
 について淀江氏による簡潔な説明がありきわめて有意  
 義な文献である. 淀江氏でなければ書けなかったであ  
 ろう裏話も盛り込まれており興味深い.(NT) [鳥根県]

### 【哺乳類】

- 一澤 圭・西 信介・山川 渉(2017)鳥取県内における  
 ハクビシン(ネコ目ジャコウネコ科)の確認記録(2010  
 ~2016年). 山陰自然史研究, No. 14, pp. 33-35. [鳥  
 取県]  
 小林朋道(2017)ニホンモモンガ*Ptermus momonga*による  
 フクロウの鳴き声に対する反応. 山陰自然史研究, No.  
 14, pp. 17-21. [鳥取県]  
 國永尚稔・一澤 圭・西 信介(2017)鳥取県内で初めて  
 捕獲されたハクビシン(ネコ目ジャコウネコ科)の解  
 剖所見. 山陰自然史研究, No. 14, pp. 23-26. [鳥取県]  
 大畑純二(2017)鳥根に生息する2種のキクガシラコウモリ  
 科とユビナガコウモリ. 鳥根県立三瓶自然館研究報告,  
 No.15, pp. 31-43. /石見銀山などの廃坑で観察した3  
 種のコウモリについて. 頭骨の形, 分布, 冬眠, 繁殖  
 などについての総説. [鳥根県]  
 御厨正治(1976)ニホンカワウソ雑記, 哺乳動物学雑誌, 6  
 (5/6): 214-217. /カワウソが1928年に保護獣になる  
 以前の1923から1927年のカワウソの日本の都道府県  
 別の農林省の狩猟統計の表(表1)が掲載されており,  
 1925年に鳥取県で1頭のカワウソの捕獲記録が掲載さ  
 れている.[鳥取県]  
 山田 勝(2014) 苫田郡鏡野町越畑でミズラモグラを拾  
 得. しぜんくらしき, No. 90, p. 7. /鏡野町越畑の路  
 上でミズラモグラ1頭を拾得(2014.3.29). 鳥取県境  
 に近い記録として掲載した.[岡山県]  
 山田 勝(2017)鳥取県八頭郡智頭町でコテングコウモリ  
 を確認. しぜんくらしき, No. 101, p. 4. /智頭町内の  
 2カ所でコテングコウモリ計7個体を確認: 智頭町大字  
 河津原標高約600 m(タケニグサ枯葉内)(2016.10.22,  
 4個体); 駒帰標高約380 m, タケニグサ枯葉内(2016.  
 10.22)(3個体). いずれも午前中の確認.[鳥取県]

### 【鳥類】

- 桐原佳介(2017)米子水鳥公園の鳥類標識調査. pp. 40-41.  
 In: 一澤 圭(編) 企画展「つばさの博覧会. 巨大翼竜  
 からペンギンまで」展示解説書. 読売新聞大阪本社, 48  
 pp. / 1995年の米子水鳥公園開園当初から継続され  
 ているバンディングの記録. クロハラアジサシ, シベ  
 リアセンニュウ, チフチャフなど, 国内で標識記録が  
 稀な鳥類も.  
 桐原佳介・土居克夫・津森 宏(2017)鳥取県のブッポ  
 ウソウとその保護管理事業. pp. 36-37. In: 一澤 圭  
 (編) 企画展「つばさの博覧会. 巨大翼竜からペンギ  
 ンまで」展示解説書. 読売新聞大阪本社, 48 pp. / 1999  
 年からの鳥取県内でのブッポウソウの保護管理事業の  
 紹介.  
 公益財団法人ホシザキグリーン財団(2017)グリーンパー  
 クでBird Watching ~ 20年の記録. 公益財団法人ホシ  
 ザキグリーン財団, 124 pp. / 宍道湖グリーンパーク  
 開演20周年を記念して2006年と2012年に発行された  
 「グリーンパークでBird Watching」をもとに, その後  
 の記録を加えて発行された野鳥観察手引き本. これま  
 でに出現した212種の鳥類について観察時期などがま  
 とめられている. うち205種について写真とともに解  
 説がある.[鳥根県]  
 楠ゆずは・楠なずな(2017)鳥取県西伯郡大山町大山寺  
 におけるジョウビタキの繁殖. 銀杏羽, No. 154, pp.  
 8-10. /大山の大山寺地区において2017年4月から7  
 月までの30日間の調査で, ジョウビタキ10つがい,  
 14巣を確認. 子育て中に2回目の繁殖をおこなうこと  
 も確認.[鳥取県]  
 星野由美子・市橋直規(2017)三瓶山におけるミヤマホオ  
 ジロ*Emberiza elegans*の繁殖. 三瓶自然館研究報告,  
 No.15: 63-65. [鳥根県]  
 森 茂晃・曾田一志・向井哲也(2017)鳥取県沖会場にお

けるクロアシアホウドリの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, p. 264. / 鳥取県や島根県ではこれまで未記録であったクロアシアホウドリを鳥取県琴浦町沖合で撮影. 2016年6月29日. [鳥取県]

中前雄一郎 (2017) 東郷池周辺 お散歩ガイド. 自然編 野鳥の部. 東郷湖・天神川サケの飼育放流プロジェクト, 23 pp. / 自前の写真をふんだんに使った東郷湖と周辺の野鳥のガイドブック. ウミスズメ, カンムリウミスズメの近傍から撮影した写真含む. [鳥取県]

NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 (2017) 天神川河口におけるコアジサシ保護活動. pp. 38–39. In: 一澤 圭 (編) 企画展「つばさの博覧会. 巨大翼竜からペンギンまで」展示解説書. 読売新聞大阪本社, 48 pp. / 日本野鳥の会鳥取県支部による天神川河口でのコアジサシの保護活動の解説. 1995年からの当地でのコアジサシの観察個体数のデータが出ている.

下田康生 (2017) 湖山池のオオワシ. pp. 44–45. In: 一澤 圭 (編) 企画展「つばさの博覧会. 巨大翼竜からペンギンまで」展示解説書. 読売新聞大阪本社, 48 pp. / 湖山池では毎冬オオワシの飛来が見られるが, 写真記録などから, 少なくとも2007/2008の冬から10シーズンは同一個体の飛来記録であるとのこと.

山口剛士 (2017) 高病原性鳥インフルエンザウィルスはどこから来るのか. pp. 40–41. In: 一澤 圭 (編) 企画展「つばさの博覧会. 巨大翼竜からペンギンまで」展示解説書. 読売新聞大阪本社, 48 pp. / 高病原性鳥インフルエンザウィルスの解説. 鳥取県内でも2014年にコハクチョウの糞便からB型を確認.

### 【爬虫類・両生類】

藤田宏之・寺岡誠二 (2017) 島根県出雲市における放棄水田ビオトープで確認された両生類. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 209–212. / アカハライモリ, ニホンアマガエル, ツチガエル, トノサマガエル, ヌマガエル, シュレーゲルアオガエル, モリアオガエルを確認. [島根県]

森脇晋平 (2017) 島根県邑南町の水田周辺に生息するアカハライモリの生態学的調査研究 (2) 水田内における出現個体数の季節変動から推定した繁殖期. 三瓶自然館研究報告, No.15: 67–69. [島根県]

森脇晋平 (2017) 島根県邑南町の水田周辺に生息するアカハライモリの生態学的調査研究 (3) 陸上生活期の水田周辺に生息場所・分布密度とその他の特徴. 三瓶自然館研究報告, No.15: 71–75. [島根県]

徳永裕之・中島賢友 (2017) 島根県紙祖川からのナガレタゴガエルの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No.

20, pp. 1–3. / 島根県匹見町の紙祖川からのナガレタゴガエルの報告. 島根県からは深谷川上流について2カ所目. [島根県]

### 【魚 類】

曾田一志・若林英人・内田 浩・福井克也 (2017) 江の川水系 (島根県) におけるゴギ生息状況調査. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 197–204. / 2015年から2016年にかけての調査. [島根県]

### 【トンボ目】

樋野耕一 (2017) 2016年に出雲市で採集したキイロサナエの記録. すかしば, No. 64, p. 56. / 出雲市の3カ所での6記録. [島根県]

樋野耕一 (2017) 出雲市周辺における2016年ヤンマ採集記. すかしば, No. 64, p. 49–54. / 出雲市周辺のヤンマ科とサナエトンボ科のウチワヤンマ, タイワンウチワヤンマ, コオニヤンマ, オニヤンマ科の採集記録. [島根県]

樋野耕一 (2017) 龍頭が滝でヒメサナエを採集. すかしば, No. 64, p. 8. / 雲南市掛合町龍頭が滝でのヒメサナエの記録 (4♂ 2016.7.9, 2♀ 2016.8.14) [島根県]

北山 拓 (2017) 2016年の島根県におけるオオギンヤンマの記録. すかしば, No. 64, p. 62. / 松江市と大田市のオオギンヤンマの2016年の12の採集記録 [島根県]

北山 拓 (2017) 2016年の島根県における飛来アカトンボの記録. すかしば, No. 64, pp. 59–61. / 島根県松江市, 安来市, 出雲市の2016年の飛来赤トンボ (タイリクアキアカネ, オナガアカネ) の記録. [島根県]

永幡嘉之・日暮卓志 (2017) 鳥取県におけるネアカヨシヤンマの採集記録. すかしば, No. 64, p. 5. / 鳥取市湖山町南 (鳥取大学構内) でのネアカヨシヤンマの採集記録 (1991.8.29永幡嘉之). 湖山池周辺にいたことが知られていたトンボであるが, データつきの記録がこれまでで公表されていなかったもので, この報告の意義は大きい. ネアカヨシヤンマは環境省レッドリストで準絶滅危惧. 鳥取県レッドリストで絶滅危惧II類. [鳥取県]

野津幸夫・中野一成 (2017) 鳥取県伯耆町榊水原で採集したムカシトンボとクロサナエ, その意義について. ゆらぎあ, No. 35, pp. 19–22. / 大山榊水ヶ原下流の伐採地でのムカシトンボとクロサナエの記録. [鳥取県]

## 【直翅系】

- 林 成多 (2017) ヒメクロゴキブリを島根県雲南市で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, p. 180. / 島根県未記録のヒメクロゴキブリを雲南市木次町ふるさと尺の内公園から記録. [島根県]
- 樋野耕一 (2017) 鳶ノ巣山山頂でクルマバッタとショウリウバッタモドキを採集. すかしば, No. 64, p. 12-13. / 島根県では記録の少ないクルマバッタとショウリウバッタモドキの出雲市鳶ノ巣山山頂での生息記録 (2016年). [島根県]
- 田村昭夫 (2017) ムネアカハラビロカマキリ鳥取県にも生息. ゆらぎあ, No. 35, pp. 7-9. / 外来種ムネアカハラビロカマキリの鳥取県からの初めての正式記録. 鳥取市湖山町鳥取大学構内 (2017.10.1, 1♂, 山岸瑞樹採集). 外来種か在来種かがはっきりしないことについての説明があるが, 最近, 中国から輸入されている竹箒にしばしば本種の卵鞘がついており, これが移入・分布拡大の原因となっているとの報文が出ている: 櫻井 博・苅部治紀・加賀玲子 (2018) ムネアカハラビロカマキリの非意図的導入事例—中国から輸入された竹箒に付着した卵鞘—. 神奈川県立博物館研究報告, 自然科学, No. 47, pp. 67-71. (NT) [鳥取県]

## 【半翅目】

- 緋田祐太・林 成多 (2017) 島根県東部でヒゲナガサシガメを確認. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, p. 28. / 島根県レッドリストで情報不足にランクされているヒゲナガサシガメをこれまで記録のなかった県東部で確認. 出雲市と松江市. [島根県]
- 林 成多 (2017) 山陰地方産水生昆虫図鑑IV. 半翅目・甲虫類 (補遺), ホシザキグリーン財団研究報告特別号, No. 19, pp. 1-86. / 島根県と鳥取県で確認されている水生半翅目44種のリストと写真つき解説. 山陰地方産水生昆虫図鑑I~IIIで掲載できなかった甲虫数種も掲載. [島根県, 鳥取県]
- 林 成多 (2017) 低木で鳴くチッチゼミのオスを観察. すかしば, No. 64, p. 57. / 出雲市平田町出雲市立本陣記念館駐車場近く (2016.9.24). [島根県]
- 林 成多・野崎達也・片岡大輔 (2017) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園におけるカメムシ類 (半翅目) 生息調査 (2015年). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 29-50. / 2015年の木次町ふるさと尺の内公園での調査で記録された55科315種の半翅目昆虫 (キジラミ類, コナジラミ類, アブラムシ類を除く) の報告. キボシマルウンカ, スケバハゴロモ, ムネア

カアワフキ, ノコギリカメムシ, ウシカメムシ, オオミズムシが環境省または島根県レッドリスト掲載種. 外来種はヨコヅナカメムシ, アワダチソウグンバイ. [島根県]

- Hosokawa, T., Ishii, Y., Nikoh, N., Fujie, M., Natoh, N., & Fukatsu, T. (2016) Obligate bacterial mutualists evolving from environmental bacteria in natural insect populations. *Nature Microbiology*, 1 (15011), pp. 1-7. / チャバネアオカメムシの中腸盲嚢内にある共生細菌の多型の分布調査が含まれる. 九州本土以北の共生細菌はすべてA型のみ. 屋久島以南の南西諸島にはA型は見られず, B型が優占的であるが, それ以外にC~Fまでのさらに異なる型が集団内多型として (一部には1個体内で2タイプの細菌をもつものもあり) 保有されていた. このパターンは共生細菌を獲得した歴史が浅く, また, しばしば共生細菌の置換が起きていることを示すという. 鳥取市の集団も調査されているが他の本州各地と同様A型であった. [鳥取県]
- 大生唯統 (2017) 鳥取市におけるキマダラカメムシの記録. ゆらぎあ, No. 35, pp. 26-27. / 鳥取市東町2丁目および鳥取市若葉台南6丁目, 鳥取市浜坂, 叶, からのキマダラカメムシの記録. [鳥取県]
- 尾原和夫 (2017) 島根県で採集された未公表の異翅半翅類 (3). すかしば, No. 64, p. 43-47. / 島根県の異翅半翅類66種の記録. [島根県]
- 小椋 隆 (2017) 鳥取県東部でヒメミズカマキリを採集. ゆらぎあ, No. 35, pp. 29-30. / 鳥取県で記録の少ないヒメミズカマキリの記録. 鳥取市若葉台鳥取環境大学構内ピオトープ (2017年) と八頭郡八頭町門尾 (2017年). [鳥取県]
- 田村昭夫 (2017) キマダラカメムシの幼虫を自宅で見撃. ゆらぎあ, No. 35, pp. 36-37. / 倉吉市宮川町のシダレヤナギでキマダラカメムシの幼虫を確認 (2017.10.18) [鳥取県]
- Tanaka, H. (2017) Redescription of *Acanthococcus chabahiba* (Kuwana & Nitobe, 1918) (Hemiptera: Coccoomorpha: Eriococcidae). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 235-238. / 記録が乏しく形態記載も不十分なチャボヒバフクロカイガラムシ (フクロカイガラムシ科) を島根県隠岐の島町より採集した標本と埼玉県からの標本に基づき, 再記載した. 隠岐での宿主植物はスギ. 埼玉県のものはヒノキ. [島根県]
- 吉富博之・林 成多 (2017) イボタロウムシを島根県で確認. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, p. 56. / 島根県では隠岐で記録があったが, 本土側では記録のなかったイボタロウムシ (カイガラムシ科) を益田市

匹見峽から記録。[島根県]

### 【鞘翅目】

- 福井修二 (2006) 天敵微生物*Beauveria bassiana*によるマツノマダラカミキリ成虫駆除試験. 島根県中山間地センター研究報告, No. 2, pp. 69–76. /材料は江津市黒松町, 出雲市野崎町, 松江市宍道町から入手。[島根県]
- 福井修二 (2009) 天敵微生物*Beauveria bassiana*によるマツノマダラカミキリ成虫駆除試験 (2). 島根県中山間地センター研究報告, No. 5, pp. 43–47. /材料は江津市黒松町, 出雲市野崎町, 松江市宍道町から入手。[島根県]
- 福井修二 (2009) 島根県におけるハラアカコブカミキリ被害拡大と*Beauveria brongniartii*による成虫駆除試験. 島根県中山間地センター研究報告, No. 5, pp. 49–55. /材料は邑南町産。島根県内の分布図が示されている。[島根県]
- 吉富博之・林 成多 (2017) ムモンコバネの隠岐島後における記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 20: 114. /マキノゴケを食草とするムモンコバネ(コバネガ科)を隠岐島後大満寺山で記録。[島根県]
- 林 成多 (2017) 出雲市と雲南市でのエグリゴミムシの記録. すかしば, No. 64, p. 57. /出雲市小境町 (2016.8.31) 1ex., 雲南市木次町山方 (2016.9.8) 1ex. [島根県]
- 林 成多 (2017) ヒメドロムシ科幼虫の微細構造の観察2. アヤスジミゾドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 19–27. /材料は出雲市斐伊川下流から採集されたもの。[島根県]
- 日暮卓志・岡 義人 (2017) 岡義人コレクションのコガネムシ. すかしば, No. 64, pp. 1–4. /島根県立三瓶自然館に寄贈された岡義人氏所蔵昆虫標本のうちクワガタムシ科をのぞくコガネムシ上科のリスト。多くは山陰両県以外で採集されたものであるが, 島根県のオオフタホシマグソコガネ (写真あり), 鳥取県智頭町で採集されたオオキイロコガネ (写真あり), キスジコガネ, ヒメコガネ, ツヤコガネ, ナガチャコガネ, アカピロウドコガネの標本が含まれる。[島根県, 鳥取県]
- 樋野耕一 (2017) 2016年に出雲市で採集したヤマトタマムシの記録. すかしば, No. 64, p. 56. /出雲市の4カ所での2016年の記録。[島根県]
- 河野敬太・澤村信生・泉 洋平 (2017) 島根県雲南市におけるクリジギゾウムシ越冬幼虫の調査と成虫の捕獲方法の検討. 中国昆虫, No. 30, pp. 57–61. /島根県雲南市吉田町吉田のクリ栽培圃場での調査 (2015年) [島根県]
- 國本洗紀 (2017) コガタノゲンゴロウのテネラル個体の越冬水域差. ゆらぎあ, No. 35, p. 18–19. /鳥取県中部でのコガタノゲンゴロウのテネラル個体 (脱皮直後の外皮の柔らかい個体) の出現率に大きい地域差があるが, それが大規模営農の水田の農法とそれ以外の水田との違いに対応しており, 農法の違いに起因するのではないかという指摘がある。[鳥取県]
- 國本洗紀 (2017) コガタノゲンゴロウの生態 (その8) — 採餌活動範囲について —. ゆらぎあ, No. 35, pp. 10–12. /鳥取県中部での2014年の標識個体の調査にもとづくコガタノゲンゴロウの採餌範囲の検討。[鳥取県]
- 宮本 剛・吉富博之・林 成多 (2017) 島根県から発見されたタケトゲハムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 219–224. /益田市と浜田市の4地点から, 島根県未記録であったタケトゲハムシを報告。アズマネザサが食草。幼虫はリーフマイナー。島根県西部から東部に分布を拡大中と考えられるとのこと。[島根県]
- 皆木宏明 (2017) 三瓶山で採集されたアカマダラハナムグリについて. 三瓶自然館研究報告, No.15: 83–84. [島根県]
- 皆木宏明 (2017) 島根県美郷町で採集されたアトラスオオカブトについて. 三瓶自然館研究報告, No.15: 85–86. /2015年7月18日, 飯塚智・友起父子が, 三郷町粕淵でアトラスオオカブト♂生体をライトで採集。[島根県]
- 中野一成 (2017) 鳥取県江府町でアカネキスジトラカミキリを採集. ゆらぎあ, No. 35, p. 23. /鳥取県高鉢山がタイプ産地で, 鳥取県では当地以外に記録のなかったアカネキスジトラカミキリを江府町御机で記録。[鳥取県]
- 野津幸夫 (2017) 鳥取県中西部で得られた記録の少ない甲虫. ゆらぎあ, No. 35, pp. 13–15. /鳥取県で記録の少ない甲虫6種の記録。カクモンチビオオキノコ (大山), ツマグロチビオオキノコ (大山), タカクラチビオオキノコ (大山笛吹山) (以上オオキノコムシ科), ツノブトホソエンマムシ (大山), ヒメホソエンマムシ (三朝町福本峠) (以上エンマムシ科), コクロマルハナノミ (日南町船通山, マルハナノミ科), 昆虫, 鳥取県, 甲虫, 大山, カクモンチビオオキノコ (大山), ツマグロチビオオキノコ (大山), タカクラチビオオキノコ (大山笛吹山) (以上オオキノコムシ科), ツノブトホソエンマムシ (大山), ヒメホソエンマムシ (三朝町福本峠) (以上エンマムシ科), コクロマルハナノミ (日南町船通山, マルハナノミ科) [鳥取県]
- 野津幸夫・中野一成 (2017) クロガネネクイハムシを島根県奥出雲町で採集. すかしば, No. 64, p. 42. /鳥根県

- 仁多郡奥出雲町竹崎羽内谷 (2015.5.25) 7個体。[島根県]
- 大生唯統 (2017) 鳥取県東部でカワラゴミムシを採集。ゆらぎあ, No. 35, p. 28. / 鳥取市浜坂からカワラゴミムシの記録。[鳥取県]
- 大生唯統 (2017) 鳥取市にハラアカコブカミキリが侵入。ゆらぎあ, No. 35, pp. 24–26. / 鳥取県新記録のハラアカコブカミキリの記録。鳥取市若葉台 (鳥取環境大学と若葉台南5丁目), 鳥取市海蔵寺, 日本では対馬のみから知られていたが, 1950年代から九州で見つかるようになり分布が拡大しているとのこと。[鳥取県]
- 小椋 隆 (2017) 鳥取市街地周辺におけるカミキリムシ2種の記録。ゆらぎあ, No. 35, p. 28. / 鳥取市国府町宮ノ下からのムネマダトラカミキリ (鳥取県では稀) と, ハラアカコブカミキリ (鳥取県新記録: 同誌掲載の大生による記録も参照) の記録。[鳥取県]
- 大浜祥治 (2017) 松江市東本町の路上でコガタノゲンゴロウが拾われる。すかしば, No. 64, p. 64. / 松江市東本町3丁目 (2016.8.19) 1♀。[島根県]
- 岡 義人 (2017) 飯南町でクリストフコトラカミキリを採集。すかしば, No. 64, p. 5. / 最近, 島根県からの記録の少ない本種の記録。飯南町小田 (2016.6.2) [島根県]
- 鶴崎展巨・唐沢重考・柴田祥明・飯田礼康・越田佳苗・塚本錬平・長谷川和樹・福井順也・村瀬真史・和田将典 (2017) 鳥取砂丘におけるハンミョウ2種の成虫の季節消長とエリザハンミョウの個体数推定 (2016年)。山陰自然史研究, No. 14, pp. 9–16. [鳥取県]

### 【双翅目】

- 林 成多 (2017) 島根県産ブユ科の同定と分布。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, No. 21, pp. 1–122. / 島根県から記録されているブユ科26種の総説。[島根県]
- 林 成多・門脇久志 (2017) 島根県東部の赤川とその支流 (斐伊川水系) におけるブユ科の分布: 夏季・秋季調査の結果。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 151–170. / 2016年7～11月の調査。10種のブユを確認し, 水系中の分布図を作成。[島根県]
- 前田泰生 (2017) 島根県産メバエ類の採集記録再補遺。すかしば, No. 64, p. 9–10. / 島根県からは15種のメバエ科昆虫が知られているが, そのうち10種での新しい記録を掲載。[島根県]

### 【膜翅目】

- 林 成多 (2017) 島根県産アリ科生態写真集。ホシザキグ

リーン財団研究報告特別号, No. 21, pp. 1–98. / 島根県産のアリ82種のうち写真のない22種をのぞく60種の写真集。[島根県]

- 加藤 学 (2017) 岡山県におけるフジジガバチの記録と生息環境。中国昆虫, No. 30, pp. 47–49. / 環境省RDB準絶滅危惧種のフジジガバチ *Ammophila clavus* を岡山県蒜山三平山麓から記録。岡山県初記録。鳥取県大山で1940年と2014年に記録があることを文献から引用。[鳥取県]
- 大生唯統 (2017) 鳥取県東部でチャイロスズメバチを採集。ゆらぎあ, No. 35, pp. 33–34. / 若桜町諸鹿 (扇ノ山 870m) (2017.9.15), 鳥取市若葉台 (2017.10.2)。[鳥取県]
- 大畑純二 (2017) セグロアシナガバチとクロアゲハの蛹化過程。島根県立三瓶自然館研究報告, No.15, pp. 1–11. / セグロアシナガバチとクロアゲハの蛹化過程とセグロアシナガバチの翅の形成過程を観察, その結果をもとに昆虫の飛翔の起源および完全変態と不完全変態の違いについて考察。[島根県]
- 田村昭夫・岡田珠美 (2017) チャイロスズメバチを若桜町で採集。ゆらぎあ, No. 35, p. 33. / 八頭郡若桜町糸白見 (2017.8.25) に営巣していたもの。[鳥取県]

### 【トビケラ目】

- 林 成多 (2017) 島根県東部におけるミサキツノトビケラの生息状況。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 95–98. / 山陰地方では1939年に鳥取県東郷湖で記録されて以来, 報告がなかったというミサキツノトビケラ (ヒゲナガトビケラ科) を出雲市の8カ所の湖沼 (溜池含む) で生息確認。6県でレッドリストに掲載されているという。[島根県, 鳥取県]

### 【鱗翅目】

- 有田 齊・前田善広 (2017) 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース (15) ジャノメチョウ亜科 (2)。ウラナミジャノメ, ヒメウラナミジャノメ, リュウキュウウラナミジャノメ, マサキウラナミジャノメ, ヤエヤマウラナミジャノメ。34 pp. NRC出版。 / ウラナミジャノメについて鳥取県では福部村岩戸, 島根県では日本海の海岸岩場沿いと江の川流域などの標本が多数図示されている。[鳥取県・島根県]
- 有田 齊・前田善広 (2017) 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース (16) ジャノメチョウ亜科 (3)。クモマベニヒカゲ, ツマジロウラジャノメ, ウラジャノメ。76 pp. NRC出版。 / 島根県産ウラジャ

- ノメ(匹見町亀井谷川・山根上・道川)の3例が図示されている。[鳥根県]
- 藤岡知夫(2017) 藤岡知夫蝶類コレクションリスト6タテハチョウ科1. 242 pp. 北川朝生編, 日本蝶類研究所発行. /スミナガシ848, ミスジチョウ583, オオミスジ404, ホシミスジ1617, コミスジ769, イチモンジチョウ1828, アサマイチモンジ466, ゴマダラチョウ675, アカホシゴマダラ352, コムラサキ693, オオムラサキ989など, 12種13,008個体の標本箱写真とラベルデータ. 鳥取県産, 島根県産ともに多く含まれている。[鳥取県・島根県]
- 藤岡知夫(2017) 藤岡知夫蝶類コレクションリスト7タテハチョウ科2. 202 pp. 北川朝生編, 日本蝶類研究所発行. /テングチョウ1502, サカハチチョウ1281, ヒオドシチョウ514, ルリタテハ865, イシガケチョウ718など, 23種12,830個体の標本箱写真とラベルデータ. 多くの鳥取県産, 島根県産が含まれている。[鳥取県・島根県]
- 筆谷憲一(2017) 蝶たちとの出会いを求めて—隠岐諸島—。すかしば, No. 64, p. 41. /隠岐諸島のクロシジミ, シルビアシジミ, ウラギンスジヒョウモン, ホシミスジ, ルーミスジシジミ, オナガシジミ, キリシマミドリシジミの2016年の記録。[鳥根県]
- 筆谷憲一(2017) 夕日のあたるナラガシワの葉にとまるウラジロミドリシジミ♀, すかしば, No. 64, 裏表紙見返し /表紙の写真の説明(2016.6.17)ウラジロミドリシジミ1♀。[鳥根県]
- 生田 敬(2017) 鳥取県西部周辺のミスジチョウの分布. ゆらぎあ, No. 35, pp. 16–17 /鳥取県西部のミスジチョウの記録多数. 島根県と岡山県の記録も含む。[鳥取県, 島根県]
- 松田隆嗣(2017) 松江市で採集されたガ類について(2). すかしば, No. 64, pp. 25–30. /松江市からの11科64種のガの記録. ヒメアシブトクチバ, エグリキリガ, ヨモギキリガ, ツチイロツトガ, ニセマダラミズメイガについての解説を含む。[鳥根県]
- 松田隆嗣(2017) 松江市におけるワタナベカレハの記録. すかしば, No. 64, p. 48. /松江市乃白町(2014.8.10), 1♂。[鳥根県]
- 松田隆嗣(2017) 島根県におけるネズミホソバの再発見. すかしば, No. 64, pp. 6–7. /島根県RDBで絶滅危惧II類に指定されているネズミホソバ(ヒトリガ科)の島根県本土(松江市, 大田市)からの記録。[鳥根県]
- 松田隆嗣・緋田祐太(2017) 島根県におけるシロシモフリエダシヤクの追加記録. すかしば, No. 64, p. 11. /雲南市木次町山方と松江市上東川津町嵩山での本種の2013年の記録。[鳥根県]
- 松田裕一(2017) 打吹山でミスジチョウの幼虫を採集. ゆらぎあ, No. 35, p. 30. /打吹山から幼虫で採集されたミスジチョウの記録(2017年)。[鳥取県]
- 三島秀夫(2017) 島根県で採集されたガ数種について. 三瓶自然館研究報告, No.15, pp.77–81. /次の種が島根県初記録. アトボシウスキヒゲナガ, ギンヒゲナガ, サッポロヒゲナガ, シロスジクチブサガ, ルリハダホソクロバ, セスジスカシバ, イラクサハマキモドキ, ツヅリガ, ウスアカネマダラメイガ, フタシロテンホソマダラメイガ, シロモンクロノメイガ, イノウエメイガ, ウスベニスジナミシヤク, クロオビナミシヤク(本種は隠岐島では記録がある), タテスジシヤチホコ, トガリアツバ, サザナミアツバ, ヨモギガ, プナキリガ。[鳥根県]
- 三島昭一(2017) 2016年島根県におけるアサギマダラ移動情報. すかしば, No. 64, pp. 21–24. /島根県出雲市鰐淵→鹿児島県喜界島, 福岡県→出雲市, 出雲市稲佐の浜→京都市, 石川県→出雲市, 鳥取県大山榎水高原→福岡県のアサギマダラの移動記録。[鳥根県, 鳥取県]
- 三島昭一(2017) 隠岐島後, 旧・五箇村でシルビアシジミを採集. すかしば, No. 64, p. 14. /隠岐島後隠岐の島町(旧五箇村)での記録(2016.8.5.) [鳥根県]
- 三島昭一(2017) 旧・平田市でシルビアシジミを採集. すかしば, No. 64, p. 63. /出雲市島根半島(2015.7.26), 1♂2♀。[鳥根県]
- 日本海新聞(2017) 中原和郎命名の絶滅危惧種シルビアシジミ. 由来の早世の娘米国で墓発見. 日本海新聞23面 2017.1.25(水) [鳥取県]
- 野津幸夫(2017) スカシカレハを鳥取県大山で採集. すかしば, No. 64, p. 20. /鳥取県大山町博労座, 2014.8.23, 1♀。[鳥取県]
- 野津幸夫・阪本優介(2017) 伯耆大山で主に昼間採集した蛾類I. ゆらぎあ, No. 35, pp. 1–6. /大山で昼間に採集された蛾類18種の記録. ホソオビヒゲナガ, ベニオビヒゲナガ, アトモンヒロズコガ, シラホシミヤマヒロズコガ, キノコヒモミノガ, ヤシヤブシキホリマルハキバガ, シロクロキバガ, ヒメコスカシバ, オアスジキハマキ, ヘリオビヒメハマキ, ツマキオオヒメハマキ, オオミスジヒメハマキ, モンギンスジヒメハマキ, ミドリヒメハマキ, コウゾハマキモドキ, ブドウトリバsp., キオビトビノメイガ, マガリミジンアツバ。[鳥取県]
- 大生唯統(2017) 鳥取市におけるシンジュキノカワガの記録. ゆらぎあ, No. 35, p. 32–33. /鳥取市叶(2017.10.28)の1個体。[鳥取県]
- 尾原和夫(2017) 斐伊川堤防におけるジャコウアゲハの生活史と個体群動態. ホシザキグリーン財団研究報告,



- No. 20, pp. 225–233. / 出雲市大津町, 中の町, 武志町の斐伊川左岸堤防でのジャコウアゲハの生活史と個体群動態の調査。調査は2015～2016年。[島根県]
- 大浜祥治 (2017) 松江市かんべの里でクロコノマチョウを撮影。すかしば, No. 64, p. 58. / 松江市大庭町かんべの里 (2016.10.30), 1ex. [島根県]
- 坂田国嗣 (2017) 2016年度蝶観察記録。すかしば, No. 64, pp. 15–19. / 島根県, 鳥取県の記録が多く含まれる。[島根県, 鳥取県]
- 坂田国嗣 (2017) スギタニルリシジミの遅い記録。すかしば, No. 64, p. 55. / 鳥取県大山三ノ沢 (2015.5.23), 1個体。[鳥取県]
- 坂田国嗣 (2017) ベニシジミ♀にヤマトシジミ♂の求愛を撮影。すかしば, No. 64, p. 55. / 安来市島田町 (2016.9.11) の観察。[島根県]
- 坂田国嗣 (2017) 安来市でヒメアカタテハ異常型撮影。すかしば, No. 64, p. 55. / 安来市論田 (2016.9.25)。[島根県]
- 田村昭夫 (2017) アオスジアゲハを11月に目撃。ゆらぎあ, No. 35, pp. 32–33. / 倉吉市旭田町小鴨川河川敷 (2017.11.13) の目撃例 (写真あり)。鳥取県では成虫はふつう9月には見られなくなり, 11月の目撃例は初めてのこと。[鳥取県]
- 田村昭夫 (2017) クモガタヒョウモンを倉吉市で採集。ゆらぎあ, No. 35, pp. 31–32. / 倉吉市般若からのクモガタヒョウモンの記録 (2017年)。あわせて関金町からの2004年の記録も追加。[鳥取県]
- 田村昭夫 (2017) シンジュキノカワガを倉吉で10月に目撃。ゆらぎあ, No. 35, p. 37. / 倉吉市幸町 (1ex., 2017.10.25) [鳥取県]
- 田村昭夫 (2017) 打吹公園でミスジチョウを拾得。ゆらぎあ, No. 35, p. 31. / 打吹山でのミスジチョウの記録 (2017年) [鳥取県]
- 淀江賢一郎 (2017) キタキチョウの雌雄型を採集。すかしば, No. 64, p. 63. / 島根県飯南町上福田 (2016.10.12) 雌雄型。[島根県]
- 淀江賢一郎 (2017) キタテハ秋型の黒化異常型を採集。すかしば, No. 64, pp. 31–39. / キタテハ黒化型。飯南町花栗 (2016.10.12)。[島根県]
- 淀江賢一郎 (2017) 穴アキのシルビアシジミが羽化。すかしば, No. 64, p. 40. / 出雲市大社町追石鼻海岸 (2016.9.16) 母チョウ採集, 11月2日飼育羽化個体に出た左前翅に穴アキのある個体の記録。[島根県]
- 淀江賢一郎 (2017) 日南町花見山でヒサマツミドリシジミを採集。すかしば, No. 64, p. 40. / 鳥取県日南町花見山スキー場 (2015.7.5) 1♂。[鳥取県]
- 淀江賢一郎 (2017) 棲が黒くないツマグロキチョウを採集。すかしば, No. 64, p. 48. / 島根県奥出雲町馬馳 (2015.9.28) 1♂異常型。[島根県]
- 淀江賢一郎 (2017) 大陸方面から山陰地方に飛来する迷入種 (予報)。ネオゼフィルス, No.1, pp. 65–69. / 大陸から飛来してきたと思われるクジャクチョウ, ヤマキチョウ, タイワンモンシロチョウ, チョウセンシロチョウ, エルタテハ, シータテハ, ツマグロキチョウについて標本を図示し, 飛来経路のいくつかを推定した。なお, 日本本土に本来土着しておらず南方から飛来してくる蝶を, 江崎悌三は遇産蝶とよび白水隆は迷蝶とよんだ。現在では迷蝶 (めいちょう) が定着している。しかし, 飛来する昆虫は蝶だけではない。大陸から飛来するウンカの研究は国家事業であるがこれを迷ウンカとよぶ人はいない (迷入種とよんでいる)。飛来アカトンボの研究も20年以上継続されており6種ほどが記録されるようになってきた。これを迷トンボとよぶ人はいない。また鳥類研究では大陸からときたま飛来する野鳥を迷入種とよび渡り鳥とは区別している。そのほかに第三者と話をするとき「めいちょう」という音は「名蝶」(すなわち, 佳き蝶) と勘違いされる (沖繩に行ったときに宿の人と話をしていたわかった)。このまま迷蝶の呼称でいいのか疑問がある。(KY) [鳥取県・島根県]
- 淀江賢一郎・田中宏卓・川上靖 (2017) 三島寿雄先生の蝶類研究と日本産蝶類コレクション—その特徴と意義。鳥取県立博物館研究報告, No.54, pp. 1–75. / 鳥取県立高校の数学教師で, 鳥取県における指導的蝶類研究者でもあった三島寿雄氏 (1925–2015) によるチョウ類の膨大な標本コレクション (5科207種5,000個体) が同氏のご生前中の2010年に鳥取県立博物館に寄贈された。本報告はその標本の採集記録つき目録をベースとし, その概要と意義, 蝶研究の履歴が, 抄録付きの著作169編の目録および淀江氏の個人的思い出とともに詳述されている。標本は鳥取県の大山を中心に採集されたものが主体であるが, 鳥取県内の他地域および島根県内のもの, 国内他地域のものも多く含まれる。また, 鳥取県大山地域でのヒョウモンモドキ, ウスイロヒョウモンモドキ, オオウラギンヒョウモン, シータテハなど, 現在ではこの地域での絶滅種となった種の記録も多く, きわめて貴重なリストである。コレクション中の重要種についての解説, また, 同氏の全著作リスト, 同氏のご経歴と同氏が山陰地方の昆虫相研究に果たした役割などについても, 山陰地方のチョウ相と研究史に通暁し, また同氏と深い交流のあった淀江氏でなければ書けなかったであろう詳細な解題があり, たいへん貴重な論文である。(NT) [鳥取県・島根県]

## 【クモガタ類】

- 野津幸夫 (2017) 蜘蛛・オオハエトリの観察. ゆらぎあ, No. 35, pp. 35–36. / 鳥取県江府町木谷沢 (2017.8.30, 1♂) [鳥取県]
- Okumura, K. (2017) *Dichodactylus* gen. nov. (Araneae: Agelenidae: Coelotinae) from Japan. *Species Diversity*, 22: 29–36. / 鳥取県大山をタイプ産地とするヒメヤチグモ *Coelotes tarumii* Arita 1976 をタイプ種として *Dichodactylus* を新属として記載. *Dichodactylus tarumii* (Arita 1976). チュウブヤチグモ *Coelotes satoi* Nishikawa 2003 を本属に転属するとともに, *Dichodactylus shinshuensis* Okumura 2017 を新種として記載した. 標本により確認されたヒメヤチグモの分布域は滋賀県・大阪府, 中国地方, 九州北部 (大分県以北) となっている. [鳥取県]
- Tanikawa, A., Shinkai, A., Tatsuta, H. & Miyashita, T. (2017) Highly diversified population structure of the spider *Lycosa ishikariana* inhabiting sandy beach habitats, *Conservation Genetics*, 19, 255–263. / イソコモリグモのミトコンドリアCOI遺伝子の塩基配列から調べた日本列島各地の集団の遺伝構造についての詳しい解説がある. 鳥取砂丘から島根県西部までの集団は他と異なる一群を形成する. [鳥取県, 島根県]

## 【甲殻類】

- Tomikawa, K., Kyono, M., Kuribayashi, L., Nakano, T. (2017) The enigmatic groudwater amphipod *Awacaris kawasawai* revisited: synonymisation of the genus *Sternomoera*, with molecular phylogenetic analyses of *Awacaris* and *Sternomoera* species (Crustacea: Amphipoda: Pontogeneiidae). *Invertebrate Systematics*, 31: 125–140. / *Sternomoera rhyaca* タキヨコエビの検討標本に島後の壇鏡の滝, 鳥取県岩美町の標本が含まれる. 分子系統解析の結果, *Sternomoera* 属は高知県の猿田洞から新属新種として記載された *Awacaris kawasawai* Uno 1971 の *Awacaris* 属の新参シノニムとなることがわかり, 本種の学名は *Awacaris rhyaca* (Kuribayashi, Mawatari, Ishimaru 1996) に改変された. [鳥取県, 島根県]
- 大澤正幸・桑原友春・倉田健悟 (2017) 日本海沿岸からのフジテガニの初記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 213–218. / 島根県松江市島根町加賀桂島でフジテガニ (ペンケイガニ科) を確認. 日本海側からは初記録. [島根県]

園山貴之・石橋敏章・本尾 洋 (2017) 鳥取県, 島根県, 山口県から既報の異尾下目と短尾下目. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 85–94. / 鳥取県, 島根県, 山口県の既報文献から異尾類, カニ類の記録をまとめたもの. [島根県, 鳥取県]

## 【軟体動物】

鈴木 武・高田良二 (2017) 国内外来種コハクオナジマイマイの鳥取県での初記録. 山陰自然史研究, No. 14, pp. 36–38. [鳥取県]

## 【その他の無脊椎動物】

- 柴田大輔・幸塚久典・土屋泰孝 (2017) 隠岐沿岸で採集されたヒメカンムリヒトデ (棘皮動物: ヒトデ綱). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 147–149. / 隠岐島後 (隠岐の島町) の2カ所で採集した5個体についての報告. [島根県]
- 幸塚久典 (2017) 島根県隠岐浅海における日本海初記録のヒダクシウミシダ (棘皮動物門, ウミユリ綱). 日本生物地理学会会報, 71: 271–276. / 日本国内ではこれまで相模湾以南の太平洋側からのみ報告されていたヒダクシウミシダ (ウミユリ綱) を隠岐の島町津戸ハシラグリの水深約 20 m で採集 (2015.7.11). 日本海側初記録. [島根県]
- 幸塚久典・園山貴之・秋吉英雄・広橋教貴 (2017) 響灘および隠岐から得られた日本海初記録のトゲシモフリウミシダ *Alisometrac owstoni* (棘皮動物: ウミユリ綱). 日本生物地理学会会報, No. 71, pp. 173–177. / 日本海側からは初記録となるトゲシモフリウミシダを山口県響灘蓋井島沖および島根県隠岐の島町都万隠岐 (水深約 80 m) から採集 (2015.8.19). [島根県]
- 南谷幸雄・川野敬介・金 郁彦・大場裕一 (2017) 島根県の陸棲大型貧毛類相. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 20, pp. 181–195. / 島根県の陸棲ミミズ類の報告. 全域30地点から307個体を採集し2科22種を記録. 5種は島根県新記録. [島根県]

鳥取・島根両県内をタイプ産地として報告された種  
今回はなし。